

皆様は旧約聖書の出エジプト記をよくご存知のことと思います。イスラエルを襲った飢饉を避けてイスラエルの人々はエジプトへ移住しました。エジプトへ行ったイスラエルの人々はヘブライ人と呼ばれるようになり、多いに増え広がったので、危機感をいだいたエジプトの人々はヘブライ人を奴隷として酷使しました。ヘブライ人はうめき、その声が主なる神のところへ届きました。主なる神はヘブライ人に対し乳と蜜の流れる約束の地を示し、帰還の旅を始めるように言われます。その指導者として立てられたのがモーセであるのは、皆様よくご存知の通りです。

出エジプトの旅に出立した時、ヘブライ人は60万人であったと旧約聖書は記しています。人々は約束の地の最短コースである地中海沿岸の道ではなく、紅海沿いに南下してシナイ山を目指します。旅は苦難も多く厳しいものでしたので、もし最短コースをたどれば人々が困難に遭う際にエジプトへ戻りたいと考えてしまうかもしれないので、主なる神は遠回りの道をたどらせたのでした。

旅は40年にわたりました。40年といえば、世代交代には十分すぎるほどの時間です。ヘブライ人もこの間に世代交代し、約束の地に入ることが出来たのは砂漠の旅の途中で生まれた人であり、60万人いた出立の際の人々は一人もいなくなってしまったと書かれています。

40年の旅がいよいよ終り、約束の地を目前にした時、モーセはヘブライ人に対して守るべき主なる神の教えを説教しました。その説教集が本日の旧約聖書に選ばれておりました申命記です。この後モーセは約束の地を見回したところで亡くなりますので、申命記はモーセ最後の説教ということになったわけです。

出エジプトの旅は不思議な旅です。60万人の人々が世代交代しながら旅を進めるというのも大変なことですし、途中で遭遇した幾多の困難、その際になされた主なる神の御業、これが出エジプトの旅のすべてであったのです。

モーセは本日の旧約聖書の箇所、主なる神が私たち人間を深く愛しておられることを示しています。そして主なる神はすべて私たち人間の必要をご存知であり、十分恵みを与えてくださることを人々に伝えたのでした。

しかし出エジプトで示された主なる神の姿は恵みの姿だけではありません。

モーセがシナイ山に登ってなかなか降りてこないのを不安に思った人々は、モーセの兄アロンに金の子牛をつくらせてこれを神とし拝みました。これは主なる神の大きな怒りを招き、その日だけで3千人が倒れたと書かれています。またヘブライ人は困難に遭遇するたびにつぶやき、モーセを攻め立てました。ここで殺すつもりでないのだったら私たちをこの世的に満たせと言ったのです。モーセは主なる神と人々と間で苦しみました。主なる神は人々の必要を満たされましたが、彼らが、自由には責任が伴うことに気づこうとせず、都合のよいときだけ奴隷を、また別の都合のよいときだけ自由を求めるのをご覧になり、誰一人約束の地を踏ませはしなかったのです。約束の地を踏むことが出来たのは、奴隷のヘブライ人ではなく、砂漠で育ったヘブライ人だったのです。本日の福音書の最後のところをもう一度見て見ましょう。

わたしは命のパンである。あなたたちの先祖は荒れ野でマンナを食べたが、死んでしまった。しかし、これは、天から降って来たパンであり、これを食べるものは死なない。わたしは、天から降って来た生きたパンである。このパンを食べるならば、その人は永遠に生きる。わたしが与えるパンとは、世を生きかすためのわたしの肉のことである。

主なる神が与えようとしておられるのは、この世のものではない、尽きることのない永遠の命です。主イエスによってその約束がこの世に与えられ、主イエスによって私たちが与えられるようになったのです。旧約時代に始まった主なる神の救いのみ業は、主イエスによって完成したと言えましょう。主イエスが与えるパン、すなわち天国を日々追い求める信仰生活に私たちは招かれています。